

止まり木

10月24日発行
第22号

大阪市立横堤中学校

生徒10力条 その⑧

掃除をしっかりと行い、校内美化に努める

パナソニックを一代で築き上げた、日本を代表する実業家・松下幸之助さんが、掃除を“仕事と同等に重要なもの”とみなしていたことをみんなは知っていましたか。「掃除を完全にするということは、一大事業である」

「掃除ひとつできないような人間だったら、何もできない」という言葉まで残しているほど、掃除を大切にしていました。

掃除というと、“単純な作業”“誰にでもできること”というイメージを持っている人もたくさんいるでしょう。しかし、誰にでもできることを自ら実践し、いかに段取りよくできるか考えることが、仕事面での成長にもつながると、松下氏は考えていました。

たとえば、拭き掃除ひとつとっても、雑巾をきちんと絞ないと、水滴が床をかえって汚してしまったり、拭いたものを余分な水分で傷めてしまったりします。このように、さまざま気づきを得ながら視野を広げていくことができるのです。

掃除は仕事にも活かされると考えた松下氏は、“掃除は普遍的な修行”と評し、こんな言葉を残しています。

『どんな仕事でも、単純な仕事でも、真心をこめてやらないと具合が悪い。そこからいろいろなものが生まれてくるわけや。掃除の仕方でも、やっているうちに、こういう掃除の仕方があるということがわかってくる。』と。

また、掃除は、脳科学的にもメリットがあることがわかっています。例えば、磨き掃除で反復動作を繰り返すと「セロトニン」というホルモンが分泌されるのだそうです。このセロトニンが分泌されることで、やる気や学習能力が高まることが期待されます。

そこで、最近やる気が出ないという人は、自宅で、床・窓・鏡を磨く、台所のシンクやトイレの便器を磨く、といった磨き掃除を実践してみましょう。身近にある磨けば光るものを見直してみませんか。もちろん、一度に全部やる必要はない。「今日はここだけを徹底的にきれいにする！」というやり方でもOKだと思います。

ただ、汚れが多いトイレ掃除はちょっと苦手……と感じる人も多いかもしれません。しかし、さらに松下幸之助氏は、トイレを掃除することは常識や礼儀作用を身につけるのに必要だと述べています。みんなが使う場所だからこそ、誰かが掃除すると思うのではなく、自らきれいにすることが大切なことです。さらに校長先生は「汚れないようにきれいに使うことも大切だと思います。そんなメッセージが最近、トイレ内に掲示されているのをよく目にしますよね。

横堤中学校でも掃除を率先してやってくれている先生方がいます。みんなが登校してくるときに校門前を掃き掃除してくれています。これは別に役割として決まっているからやっておられるのではありません。みんながきれいな校門を通り、気持ちよく一日がスタートできるようにと自主的にされています。時々、手伝ってくれている生徒もいます。みんなは、当番としての放課後の掃除はしっかりとやってくれています。しかし、大切なのは、この先生方のように「**気づいたときにきれいにする行動が大切**」なのではないでしょうか。休み時間、教室の中や廊下にゴミが落ちていれば、拾って捨てる。そんな何気ない行動が学校の美化につながることは間違いないありません。みんなできれいな学校をさらに創っていきましょう。

